



有家中だより No.4

令和6年 8月9日

南島原市立有家中学校

校長 本多 洋二

原爆祈念日！

今日は、79回目の原爆祈念日です。世界で唯一原子爆弾を落とされた国が日本。原爆によって多くの人々が亡くなられ、今でも後遺症で苦しんでいる方がいらっしゃいます。79年前に起きたことを風化させてはなりません。そういう意味で、今日の登校日は大切な日です。平和について考え、平和な世の中にするために私たちに何ができるのかしっかり考えなければなりません。

今日は次のことに取り組みました。

各学年において、平和についての調べ学習を行った内容を発表しました。次に「新・知覧に生きる」という劇を行い、11時02分に黙祷した後、有家中学校平和宣言が提唱されました。平和学習実行委員会を中心に生徒たちはよく頑張っていました。

学校閉庁日におけるお願い

8月13日～8月15日の平日において、学校は閉庁しますので、連絡については、南島原市教育委員会（0957-73-6702）までお願いします。

夏休み中の生徒たちの活躍！

早いもので、夏休みも半分終わりました。

今日の全校登校日に元気な顔を見ることができ、大変うれしく思いました。夏休み中、県中総体で生徒たちの頑張る姿がありました。

県中総体の結果は以下のとおりです。（団体戦）

○軟式野球 2回戦 惜敗（2対8）西大村中

○バレー男子1回戦 惜敗（0対2）早岐中

○剣道男子 予選リーグ惜敗

○空手競技 団体戦 1回戦惜敗（1-2）

組手 荒木久允佳・小嶺璃央（対 滑石中）

「平和を考える」

8月9日は全校登校日、79回目の原爆祈念日でした。有家中学校では平和集会を行いました。生徒の皆は、真剣に参加していました。

あるテレビ番組で、79年前、長崎市で被爆された下川さんが「平和とは、人の心の痛みが分かること」と言われていました。戦争は、相手の心の痛みなど考えては、できません。人の心の痛みがわかれば、人を傷つけたり、ましてや、人を殺したりできるはずがありません。

「平和とは人の心の痛みがわかること」平和の反対は、「無関心」とも言われます。身近な所からこの平和について考えてほしいと思います。自分のそばにいる人に関心をもち、その人がどんな気持ちでいるのかを考えることができますか。

平和を考える時、身近な平和から実現させていくことで、身近な平和が広がり、世界の平和につながっていくと考えます。身近な平和について考えるためには、自分の周りの人がどんな思いでいるのか、どんな気持ちでいるのかを感じる事が大切だと思います。

ご心配をおかけしました。

私事ですが、夏休み前の7月10日、長大病院へ緊急搬送され、入院したことにより、生徒や保護者の皆様には、大変、ご心配をおかけしました。お陰様で、後遺症もなく、元気に復帰しましたのでご安心ください。

夏休み中の活躍！

◎県中総体（個人戦）

- 剣道競技 田中 渉 1回戦惜敗
- 空手競技 荒木久允佳 予選リーグ惜敗（形）
荒木久允佳 2回戦惜敗（組手）
- 硬式テニス競技 男子ダブルス 1回戦惜敗
土橋優大・白石煌明（対佐世保相浦中 3-6）

◎社明弁論大会



7月30日に開催された社会を明るくする運動弁論大会に佐藤由依、井上琉華の2人が出場しました。2人ともよく頑張り、好評でした。

<努力賞の2人>

8・9月の主な行事予定

<8月>

- 21日（水）・22日（木）登校日
- ・実力テスト
- 25日（日）親子除草作業
- ・7:00~8:00（掲揚台前集合）

<9月>

- 2日（月）始業式
- 6日（金）学級委員任命式
- 12日（木）生徒集会
- 18日（水）19日（木）職場体験学習
- 27日（金）駅伝大会激励会

ブレイクコーナー

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

啐啄同時（そったくどうじ）

「啐啄同時」この言葉を御存知でしょうか。もともとは、仏教用語で、禅の教えによくつかわれる言葉だそうです。

啐：鳥のひなが、卵から生まれ出ようとする時、卵の殻をつついて音を立てること。

啄：親鳥が外から卵の殻をついばんで破ること。

「啐啄同時」

この2つのことが同時に行われ、はじめて殻が破れひなが生まれること。

この言葉、卵の中のひなと親鳥の関係を表しており、両方が一致してひなが生まれる。「機を得て、両者相応じる得難い好機」という意味だそうです。また、この言葉は、師弟関係や親子関係の在り方についても教えている言葉だと言われています。

師弟関係では、弟子の修行が円熟したことに気づいて師匠が悟りの機会を与える。この場合、弟子も師匠の意思に應じる境地に立っていなければなりません。つまり、双方が意思相合することが大切なのです。

親子関係での「啐啄同時」とはどんな時でしょうか。親の指導と子どもの意識が一致した時、その指導の成果はあがります。今、指導する時期ではなく、もう少し待てば自然と身に付くこともあれば、今指導しないといけないのに、機を逃してしまい、身に付くことができない場合もあります。

双方が一致した時に、その指導の成果は高まります。具体的な例として、こんなことがありました。『親と子どもが二人で歩いています。子どもが、ある家の庭を見て、「お花がとってもきれいだよ」と言いました。するとその親はスマホの画面を見ながら、「よそ見しないで前を見て歩きなさい。急いで帰るよ。」でした。』ここで、「ほんとだね。きれいだね。きれいな花に気づいた〇〇もすごいね。家でも花を植えてみようか。」と言葉かけをすれば、子どもは、さらに美しいものを美しいと感じる心を育てるのではないのでしょうか。